

競馬と生きた人生

C氏(病的賭博 30代 男性)

私のギャンブルとの出会いは中学生の時、競馬中継をテレビで見たのが始まりでした。家族や親戚など、身近な人にギャンブルをやる人はいませんでした。馬の走る姿があまりにもかっこよく見え、どんどん競馬に魅了されていきました。

初めて馬券を買ったのは中学生のとき、祖父母が馬券を購入できる場所のすぐ近くに住んでいたため、祖父に購入を依頼し、買って貰いました。それから高校卒業まで年に数回祖父に買って貰い、かなりの高確率で当たっていたのを覚えています。その勝ちがすべての始まりであったのだと、今になって感じています。

大学生になると免許を持ち、友人と馬券を買いに行き、小遣いはほとんど競馬に使っていたと思います。服など自分のほしい物はあまり買わず、いつも同じ物を身に着けていました。

そして就職し、自分でお金を自由に使えるようになると拍車がかかり、支払い以外の給料は、給料日のその日に全て使うようになっていきました。こうしてだんだんお金に困るようになり、ついに両親のお金を勝手に使うようになりました。もちろん申し訳なさはありませんでしたが、すでに正常な判断はできず、気がついたときには消費者金融で借金をするようになっていました。借りたお金は増やして返せばよい、こんなありえない考えをその当時は自分で正当化し、自分に言い聞かせ、どんどん深みにはまっていきました。

ついにどうにもならずに両親へ告白。当時ギャンブル依存という言葉すら知らない両親はすぐに借金を肩代わりしてくれました。そんな両親の心を踏みにじり、その後も隠れて借金をし、就職3年目で結婚する時も、借金をしていたことを知っていた妻にも、「もう借金はない」と嘘をつき、嘘に嘘を重ねる生活を始めることになりました。

結婚してからはさらに拍車がかかり、お金を増やして返そうという考えを払拭できず、借金がどんどん膨れていきました。妻にばれては繰り返し、嘘をつき、少額な借金も含めれば30回以上は借金をしてきたのではないかと思います。

妻には本当に感謝しかありませんが、よく今まで一緒にいてくれたと心から思います。

ただ何度か離婚する話をしたことはもちろんあります。ケンカをしたことも何度もあります。家を追い出されそうになったことも何度もあります。妻が発狂寸前になったところも何度も見ました。本当に苦しい思いをさせてしまい、この日々、姿は一生忘れるべきではないと心に刻んでいます。

現在、ギャンブルはやめることが出来て10ヶ月になります。ほしい服もだんだんと買えるようになり、2人の子供を遊びに連れて行くことも少しですができています。100円を1000円にすること、1万円を10万円にすること。それは同じ10倍だから確率は同じである、そんな金銭感覚を徐々に取り戻していることも実感できるようになっていき、就職して以来、初めて心に余裕を持って生活できています。

ただし、それは今までいろいろな方が支えてくださり、今の自分が生きていられるのです。両親は私からの着信があるといまだにドキドキすると言ひ、ケンカを見てきた長男は私と妻が真剣に話すと「もうやめて」とビクビク震えます。妻も私のすべてを疑ってしまうでしょう。これから私がどのように生きてても信頼を得ることは難しいと思います。しかし、両親も妻も私と生きていくことをまだあきらめずにいてくれます。そんな両親、妻に感謝をし、子供の成長を感じながら普通に人間らしく生活する人生を歩んでいきたいと思っています。

最後に、私はギャンブル依存症の自分を認めるまで約10年かかりました。でも、まだまだ人生は立て直せると父は勇気付けてくれ、自分でもそう思えるようになってきました。今色々な依存症に苦しんでいる方、どんなに時間がかかっても人生は立て直せます。そう信じて前をむいて歩んでいきましょう。